

4 睫毛・眉毛のエクステ

麗ビューティー皮膚科クリニック院長

居原田 麗

IHARADA Rei

1 はじめに

睫毛エクステンションとは、「睫毛エクステ」、「アイラッシュエクステンション」とも呼ばれ、睫毛に人工毛を装着して目もとを美しく見せる美容法である。接着剤を用いて自睫毛1本に人工毛1本を装着する方法が現在は一般的であるが、細く柔らかい毛を自睫毛1本に数本装着する方法や、上下で自睫毛を挟むようにして装着する方法などもある。世界中で普及する美容法であるが、日本では2008年の厚生労働省からの通達により、睫毛エクステは美容師法に基づく美容に該当し、美容師資格所有者でのみ施術が認められている¹⁾。美容師の業となってもなお、全国の国民生活センターへの危害相談は年々増加傾向にあるのが現状であり²⁾、美容師やわれわれ医師も含め、知識や技術の向上が求められている。睫毛エクステの技術や製剤などに関しては、施設によってさまざまであり細かな規定や法律などでも定めがなく、ここでは一般的なものを紹介したい。

2 接着剤・除去剤

睫毛に人工毛を接着する際に用いる接着剤(グルーと呼ぶ)の主成分は一般的にシアノアクリレートである。接着成分として通常80%以上配合されるシアノアクリレートに、粘度・硬化速度調整として微量配合されるアクリル樹脂、着色・強化として微量配合されるカーボンなどが一般的な成分である。シアノアクリレートには種類があり、エチルシアノアクリレート(シアノアクリル酸エチル)、ブチルシアノアクリレート(シアノアクリル酸ブチル)、エトキシエチルシアノアクリレート(シアノア

クリル酸エトキシエチル)などが存在し、多用されているのはエチルシアノアクリレートであり、硬化速度が速く接着力も強いが刺激・臭いもやや強い。日本製で刺激が少ないなどとよく謳われているのがブチルシアノアクリレートであるが、現状使いやすさからはほとんどがエチルシアノアクリレートを主成分とするものが使用されている²⁾。

シアノアクリレートが硬化する際には、微量のホルムアルデヒドが発生するほか、鉛や安息香酸が検出されるが、どれも人体に影響を及ぼす濃度ではない³⁾。

除去剤(リムーバーと呼ぶ)の主成分は炭酸プロピレンであることが多い。アセトンや酢酸エチルなどを使用すると眼瞼や目への副作用が生じやすいので現在はあまり使用されていない。

これらのものすべて、使用環境、使用期限、保存方法などを適切に管理しないと予期せぬトラブルを引き起こす可能性がある。

3 人工毛

現在主流となっている人工毛はポリブチレンテレフタレート(polybutyleneterephthalate ; PBT)である。PBTは形状記憶性に長け、耐薬品性にも優れている。人工毛には、シルク、ミンク、セーブル、ベルベットなどさまざまな呼び名が存在するが、どれも成分はPBTである。人工毛の太さは0.05～0.25mmで日本人の場合0.1mmや0.15mmを多く使用する。長さは6～13mm前後で、とくに使用されるのは上睫毛で9～11mm、下睫毛で6～8mmである。カールの具合やカットの形状、色などもさまざまな種類が存在する。